



まず、高校生である私たちが新日鐵住金の本社を訪問するという貴重な体験ができたことを嬉しく思います。私はこの企画で御社に伺うまでどのような会社であるか知りませんでした。しかし、社員の方の話と見せていただいたビデオから、日本有数の素材・鉄鋼メーカーであることを知りました。また、とてもグローバルな会社であることも分かりました。途中で、班ごとの話し合いの席が設けられました。私は話し合いが苦手な今回も他の人が話しているのを聞いているだけでした。その話し合いの中で、日本人は言いたいことを口に出さない傾向がある、という話題が出ました。それを聞いてすぐに自分のことだなと思いました。日本人は「以心伝心」という言葉のように自分の思っていることを言わなくても相手に伝わると考えます。それは外国人からしたら、何を伝えたいのか分からないということになります。「以心伝心」の精神は日本の文化として尊重するべきですが、話し合いの場では自分の考えを相手に伝える積極性が重要になってくるのだと思います。私もその積極性を身につけられるように頑張りたいと思います。

また、高校生のうちとはとにかく経験することが大事だという話を聞きました。この話を聞くまでは、私は高校で何か鉄に関することを経験することが必要なのではないかと思っていました。専門的なことは大学で学ぶべきで、高校では多く

のことを経験して自分の興味を引くものを見つけることが大事だとおっしゃっていました。法務の仕事をしている千葉修平さんも「後悔しないように、迷ったらやる」とおっしゃっていました。これからは学校での様々な行事に積極的に参加して様々な経験を積んでいければいいなと思います。

私たち1班は帝京大学のEBMセンターというところを訪ね、矢野榮二教授から話を伺いました。EBMセンターでは根拠のある医療について研究しています。ここでいう根拠とは経験や専門家の意見ではなく同じ期間である程度の人数の人にその治療を行った場合良くなるかどうかという研究を基にした根拠です。現在の医療ではこのような根拠が得られている治療法はいまだ少ないです。私が目指す診療放射線分野でも、検診などで使用されるCTの人体への放射線の影響がどのくらいで、がんなどの病気を引き起こすかどうか根拠がありません。しかし、その根拠を求めている患者さんもいらっしゃるし、患者さんが医師と今後の治療法を決める時にもどの治療法が一番効果的なのかという根拠があると安心感が増します。EBMセンターで行われている研究は今後の医療にとってとても大切な研究なのだと思います。現在もいろいろな治療法の比較や副作用の少ない薬についても研究しているそうです。また、矢野教授は公衆衛生学として月1で石巻市に赴いて絆についての調査を行っているそうです。震災の際に地域の絆が深かった場所は死亡者が少なかったそうです。矢野教授は科学の勉強だけでなく、人の命を守ることが大切だと思う心が大事なのだとおっしゃっていました。何が本当なのか見極めることや学生の頃から多様な視点を持つことも大事なのだそうです。

OBOGによる座談会で一番印象に残っているのは、伊澤優花さんの話です。大学を休学してまで起業したということが私にとって驚きでした。伊澤さんの実家が造り酒屋で、伊澤さん自身がとても日本酒好きなのが話からも伝わってきました。自分の好きなことを仕事にできるのは魅力的だし、起業する勇気があるのは羨ましいと思います。伊澤さん以外にもつい最近まで世界一周の旅行に行っていた方もいて、行動力とかがあっていいな、と思うこともありました。東京の私大について聞くことができたのもいい経験だったと思います。私は現在進学として東北大学や地元の大学を考えています。だから、東京の私大とか考えることも全然なくて今回話を聞いた東京医科歯科大学という名前もその場で初めて聞いたぐらいでした。やはり東京の私大はレベルが高いんだな、と思いました。しかし、高校では学べないような研究などもできるし、医科と歯科を目指す生徒と一緒に学ぶ機会があるということに魅力を感じました。進学先として東京を選ぶかどうかはまだ分かりませんが、東京にある国公立や私立の大学も調べておきたいなと思いました。また、都内の私大の医学部を目指す場合、出題の傾向が偏っているのでも早めに対策をした方がよいという助言も頂きました。早いうちに希望する大学を決めて、それに向けてより一層の努力をしていくべきだと思いました。

東大の見学会では駒場祭という文化祭の実行委員をしている先輩から話を聞くことができました。私自身、今年の北陵祭の実行委員を務めています。初めての実行委員なので助言を頂ければいいなと思っていたのです。

が、文化祭のことだけでなく大学での学校生活についても話をさせていただくことができました。前日の座談会で1人暮らしについてマイナスの面しか聞くことができませんでした。先輩も現在1人暮らしをしているようなので1人暮らしは大変ではないか聞きました。1人暮らしは今まで親にしてもらっていたことを自力でやらなければいけないけど、楽しいことも多い、と答えてくださいました。さらに、病気になった時も駆けつけてくれる友達もいるし、あまり心配することも無いとも言っていました。また、得意・苦手教科を作らないほうがいいとも言っていました。受験の時に、得意教科を失敗してしまうと、他の教科でも自分の力を発揮することができないからだそうです。それよりはどの教科もできるようにして、一つの教科で失敗してしまっても他の教科で巻き返そうと思えるようにした方がいいと言っていました。私は数学でよくミスをしてしまうので、少し苦手意識があります。これから頑張っただけでもその意識を減らしていければいいと思います。また、今のうちから勉強する癖をつけていった方が楽だとも言っていたので、1日に2時間ぐらい勉強の時間を作れるように時間の使い方を考えていければいいと思います。現役の先輩から生の声を聞くことができたのはとても大きな収穫だったと思います。

東大で驚いたのは、女子学生が思ったより多かったことです。テレビで東大出身の芸能人が紹介されたり、東大の学生がインタビューを受けていたりすると男子学生の割合が多いのかなという印象を受けました。実際に行ってみると、女子の学生も結構いるし、男子学生と同じように勉強に励んでいるように見えました。留学も盛んで交換留学生としてやってくる外国人学生も多かったです。そのためとてもグローバルで全て英語の授業も多いそうです。将来は英語が出来るのが当然になってくると思うので、このような授業はとても効果があると思います。私ももっと英語が出来るように頑張りたいと思います。

大学には図書館や博物館などたくさんの施設が併設されていて、充実した環境でべんきょうができるのだなと思いました。先輩方も生き生きとしていて、こんな大学に進学できればいいなと思いました。そのためには日々の努力が大切になってくると思うので、本当に勉強だけはしっかりやるようにしていきたいです。

この2日間の経験は私にとってかけがえのないものになりました。このような貴重な経験ができたのは若林先生を始めとする諸先生方のおかげだと思っています。今回学んだことを忘れずに大学進学やその後の就職の際に生かしていければいいと思います。

